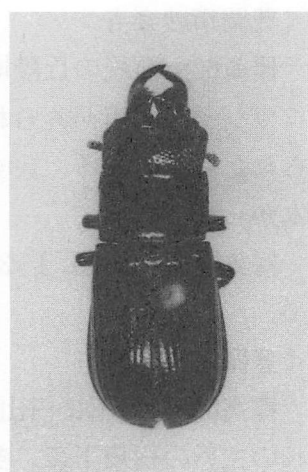


但馬で採れていたツヤハダクワガタ

谷角素彦

氷ノ山のツヤハダクワガタ *Ceruchus lignarius* については、本誌12号の拙文中で触れた。それらはいずれも標本が現存しない幻の記録であった。その後、豊岡高校に赴任された上田尚志氏が、同校生物部の未整理の標本箱から本種を見出されたことは、同氏が当会連絡誌“混蟲ずかん”22号で発表されている。この標本にも残念ながらラベルは付いていないが、但馬地方のどこかで採集されたことに疑いはなく、一緒に並べられていたスジクワガタなどに「1975.8.12 氷ノ山」というデータが付されていることから、氷ノ山で採れた可能性がもっとも高いと考えられる。



筆者は、上田氏にお願いしてこの標本を見せていただいた。写真に示したように、小型の♂である。本種は現在3亜種（ssp. *lignarius*は北海道・本州東北部に分布、ssp. *monticola*は本州中部から紀伊半島に分布、ssp. *nodai*は四国・九州に分布）に分けられていて、中国山地からは知られていない。はたしてこの個体がどの亜種に該当するかは不明だが、大あごの特徴などは独特なものであるという気がする。今後、氷ノ山あたりで正式な追加記録が出て、本個体のきちんとした位置づけがなされることを期待したい。

IRATSUME の原稿募集

IRATSUME15号(1991年4月発行予定)の原稿募集を行います。原稿作成の際には、投稿規定をよく読んでください。締め切りは、1990年12月末日(厳守のこと)。送付先は、画567 茨木市新中条町5-36-102 谷角素彦。